

令和4年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”を基礎として、“人間形成の土台づくり”を進めるため、園児達の遊びや生活を通じた教育活動を行う。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力を育てる・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭を育てる・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方ができる・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・建学の理念をもとにした教育を推進するため、以下の五点に重点を置き、教育内容の充実、改善に努める。
 - (1) 建学の理念、幼稚園教育要領が生きた生活や遊びを展開する。
 - (2) 小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育を実践する。
 - (3) 豊かな学びと体験を生む環境を整え、考える力やコミュニケーション力を養い、仲間関係を豊かにする保育を実践する。
 - (4) キンダーカウンセラーとの連携を図り、支援を要する園児への取り組みを継続し、保護者の相談等への対応を充実する。
 - (5) 保護者との連携を通して、園児と保護者の満足度を向上させる。
- ・教員の資質向上を目指し、外部研修への積極的参加及び園内研修の強化に努めるとともに、教員自らが、指導計画の充実及び領域研究に主体的に取り組みながら、自己啓発を進める。
- ・保護者との連携、協力を深めることにより教育効果を高め、園児が基本的生活習慣（生活リズムの確立、TPOの感覚、内省する習慣、我慢する気持ち、踏んばる力）を身につけることで、園児が育つ幼稚園を目指す。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じたうえで、高校生や大人と園児の交流を深め、園児の生活の幅を広げ、園児の一層の成長につなげるため、地域や系列校との連携に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	幼稚園教育要領を建学の理念及び教育方針とすり合わせ、幼稚園教育要領の実施に関する具体的方法として「写真で見る教育課程編成」を実践した。また、教員による日々の振り返りを行い、ICTも取り入れ、教育に関する情報の共有に努めた。さらに、「カリキュラムマップ」の作成と同マップを活用した保育の質向上について検討を進めた。 教職員が幼稚園教育要領と建学の理念等との接点を意識し、より良い教育課程の編成・実施に向け、継続して取り組んでいく。
建学の理念、幼稚園教育要領、教	園児達の実態を踏まえ、学びや育ちを保証できるように各

<p>育課程、園児の実態等を基に指導計画を作成する。</p>	<p>学年の担当教員が意見交換を行いながら、建学の理念及び幼稚園教育要領を踏まえた指導計画の作成に努めた。</p> <p>また、ICTも活用し、視覚に訴える教育の充実を図った。視覚に訴える教育の充実は、各教員の資質向上にもつながるため、引き続き「写真で見る教育課程」「ICTを活用した教育」を推進し、併せて「カリキュラムマップ」の作成も取り入れながら教育課程の再編成と指導計画の充実を図る。</p>
<p>教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させ、研究会等へも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上に努める。</p>	<p>オンラインでの研修も含め外部研修等へ積極的に参加し、研修で学んだ内容を園内研修で報告するなど、日々の保育の参考となるよう情報共有を推進した。</p> <p>テーマを設定した園内研修を複数回実施し、教職員間で意見交換を活発に行い、互いに刺激し合いながら自己研鑽に取り組んだ。</p> <p>また、支援を要する園児についての情報は全教職員間で共有し、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育に取り組んだ。</p>
<p>園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながら、保護者との懇談、保育参観及び子育てサロン等を開催し、園児の学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用した。</p> <p>個人情報の管理に配慮しながら、公式WEBサイトやInstagramを利用し、園児の幼稚園での生活や行事の様子等の情報発信に努めた。また、公式WEBサイトをリニューアルし、より閲覧しやすい公式WEBサイトを構築した。</p> <p>「れんらくアプリ」を活用し、保護者への連絡を迅速且つ効率的に行うとともに、同システムにより通園バスの位置をリアルタイムで発信し、通園バス利用者のバス停での待ち時間の短縮を図った。</p>
<p>安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）を進める。</p>	<p>保育環境の整備のため、随時、遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。</p> <p>機械警備を継続するとともに、園舎内外の補修・改善も行い、正門と裏門の門扉をオートロック式電気錠付門扉へ更新した。また、防犯カメラの増設も行った。</p> <p>安全な園児のバス送迎を図るため、通園バスに設置したドライブレコーダーの記録をもとに、教職員で意見交換を行い、バス運行の安全性の向上を図った。</p>
<p>地域・系列校との連携を進める。</p>	<p>地域との連携を図るための諸行事のうち敬老会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止とした。</p> <p>系列校との連携では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じて、大阪商業大学高等学校の生徒による園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を実施し、園児と生徒の交流を行った。また、同高校の吹奏楽部の生徒による演奏会を開催し、園児の親子だけでなく、地域の方々にも生演奏を楽しんでいただいた。</p>

	さらに、大阪緑涼高等学校へ園児が出かけ、保育系進学コースの生徒との交流を行った。
--	------------------------------------------

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・本園独自で策定した新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策マニュアルや国等のガイドライン等により感染拡大防止に努め、園内での感染を発生させずに教育を実施できた。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、教育や行事の内容を変更するところもあったが、コロナ禍で中止していた一泊保育を初めて園舎で行うなど、園児の主体性を育むため園児を中心に置いた教育を実践できるように工夫し、園児自らが行動して達成感を味わえる教育を行った。また、距離を保ちながら「ヒト」との関わりを意識し、コミュニケーション力や仲間意識の涵養するため、年齢に応じて園児が自らの考えや思いを伝える話し合いの時間を大切にされた。
- ・生き物の飼育、野菜の栽培など、さまざまな日々の園生活における体験や遊びを通して五感に働きかけ、建学の理念を意識した質の高い教育を展開することにより、園児の学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を育てた。
- ・幼稚園教育要領及び幼稚園の教育方針を意識し、教員間の情報共有にも努め、園児一人一人を見つめる教育を実践した。
- ・火災、地震、不審者の侵入を想定した三種の避難訓練を行い、「自分の命は自分で守る」ことができるように指導し、日々の生活における危険を回避する力を育んだ。
- ・文庫を活用して、園児が多くの絵本に出会う機会を創出し、物語に入り込む集中力やイメージを広げる想像力を養うとともに、豊かなこころの育成に努めた。
- ・オンライン形式の研修も含め、外部の研修会等へ積極的に参加し、内容を園内研修で報告することで、教員の情報共有と資質向上に努めた。また、テーマを設定した園内研修を実施し、教員の自己研鑽の一助とした。
- ・公式WEBサイトをリニューアルして閲覧しやすくするとともに、Instagramを活用した情報発信にも取り組み、保護者及び一般の方へ教育内容の周知を図った。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者との効果的な連携の推進	<p>保護者が期待する幼稚園像を保護者懇談会、保育参観及び担任等を通じて把握し、求められる幼稚園の姿を確認したうえで、カリキュラムの見直しも検討し、建学の理念や教育方針に基づく教育を展開する。</p> <p>公式WEBサイトや Instagram を用いてタイムリーに情報発信を行い、保護者との連携強化を図る。</p> <p>定期的に保育参観を開催し、日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設けるとともに、父親など男性が参加する行事も実施する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の終息を見据えた保護者との連携のあり方を検討する。</p>
教育力向上へ向けた取り組み	<p>園内研修の強化と研修会（学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学課、大私幼プロジェクト、ちゃいるどネット他）への積極的参加により、教員の教育力向上を図る。</p> <p>各教員が自己研鑽に取り組めるよう、働き方改革も踏まえな</p>

	<p>がら、在園時間の使い方の見直し等を継続して検討する。</p> <p>各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックし、個人の問題点を幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かしていく。</p> <p>教職員間の意見交換を活発に行い、情報共有を進め、日々の保育を振り返りながら教育内容の改善につなげていく。</p>
安全管理マニュアルに基づく 防災・防犯体制の確立	<p>安全管理マニュアルを状況に即して更新する。</p> <p>学期毎に避難訓練を実施して、震災やゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、全教職員が園内の避難経路及び各自の役割分担を確認し、自覚を持って行動できるようにする。</p> <p>引き続き、布施警察署と連携した防犯訓練の実施や防犯意識の向上を図るとともに、消防署との連携による防災訓練等を検討する。</p> <p>法人本部危機管理担当及び大学警備員とも継続して連携しながら、園児が安心して園生活を送れるよう、幼稚園周辺の定期的な巡回、危険個所の把握及び教職員間の情報共有を行う。</p>
特別支援教育の充実	<p>支援を要する園児へのアプローチについては、専門家の意見や助言等を取り入れて実践に結びつける必要があるため、今後もキンダーカウンセラーと教職員との意見交換や研修を充実させる。</p> <p>引き続き、積極的に外部研修へ参加し、研修内容の園内研修での報告を通じて教職員の情報共有を図る。</p> <p>保護者と連携して園児一人一人に最適な支援が行えるよう、個人カリキュラムを作成して対応するとともに、保護者に対して園児への「気づき」を促す取り組みを継続して実施する。</p> <p>園児の発達や遊びの様子を把握し、キンダーカウンセラーと連携しながら、園児と保護者へ適切な対応を行うとともに、教員の確保を含めた体制を整える。</p> <p>また、公的機関とも連携しながら、支援を要する園児の成長を促していく。</p>
地域・系列校との連携	<p>創立から続く地域とのつながりを大切にし、さらなる相互理解を深めるため、地域にも諸行事などを通して積極的に働きかけ、幼稚園の活動、行事等への理解が得られるように努める。</p> <p>引き続き、大阪商業大学の施設利用、大阪商業大学高等学校デザイン美術コースとの連携による木製パズル制作及び大阪緑涼高等学校保育系進学コースとの連携を図る。</p> <p>また、系列校との連携の充実を検討する。</p>
子ども・子育て支援新制度への 対応	<p>「認定こども園」への移行については、研究会への参加及び東大阪市並びに近隣幼稚園への聞き取り等を行い、情報収集を進める。</p>

6. 学校関係者よりの意見

★心情・意欲・態度を育てる教育

✓ 子どもが自分で考え、自分で決めて、行動できるよう見守り、自主性を育てており、こ

れが子どものモチベーションや意欲の向上につながっている。また、子どもの自信や自己肯定感にもつながっている。

- ✓ 異年齢児とのかかわりが多く、思いやりの心が育っている。
- ✓ 絵本に触れ合う機会が多く、想像力、集中力及び語彙力が養われている。

★充実した保育、施設及び環境

- ✓ ベテランの教員が多く、安心して子どもを預けられる。
- ✓ 子どもが、自然豊かな園庭でのびのびと遊べる。
- ✓ 預かり保育が充実している。
- ✓ さまざまな動植物に触れることができる。
- ✓ 野菜の栽培、緑豊かな自然に触れ、四季を感じられる。
- ✓ 季節の行事や伝統文化に触れる機会が多く、子ども達がさまざまな体験をしている。
- ✓ 高所での遊びや吊りロープ等少し危険な遊びも禁止せず、子ども自身が「気を付けて遊ぶ」ことを覚えられる。
- ✓ 電気錠付門扉への更新、防犯カメラの増設及び避難訓練の実施など、防犯と安全への対策が充実しており、安全に保育が行われている。

★新型コロナウイルス感染症への取り組み

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が充実し、園内で感染が発生していない。
- ✓ コロナ禍にありながら、園舎での一泊保育の実施など、工夫した保育が行われている。

★子どもや保護者への関わり

- ✓ 経験豊かな教員も多く、教職員が一丸となって子どもに関わっている。
- ✓ 教職員が子どもの名前と顔を覚えている。
- ✓ クラス懇談の欠席者へ担任から懇談内容を個別に連絡しており、懇談内容や保育内容を知ることができるので、欠席者にとってありがたい。
- ✓ 教職員が子どもの様子をよく見ており、子どもの変化など保護者との連絡も適切に行われている。
- ✓ 保護者会の活動にも教職員が積極的に関わっている。
- ✓ キンダーカウンセリングが、心のよりどころになる。
- ✓ どんな時でも子どもを優先に考え、子どもに寄り添い、極め細やかな保育が行われている。
- ✓ SNSでの情報の発信も含め、保護者との連携が密に行われている。
- ✓ 汚れ物の“予洗い”を行ってくれるので助かる。

★検討すべき意見

- ✓ 教員不足を感じる、また、長期休暇の教員が多く、職員配置が不安定なところもあり、保護者や子どもの中には不安を感じる者もいるので、教員配置について検討すべきである。
- ✓ 早期に退職する教員がいるが、その要因を見極め、対応を検討すべきである。
- ✓ 預かり保育の申し込み締め切りへ柔軟な対応をして欲しい。
- ✓ 夏休みなどの長期休暇中の預かり保育の定員増を検討すべきである。
- ✓ 午前保育日や夏休みなどの長期休暇時における給食の実施を検討すべきである。
- ✓ 写真撮影時、マスクを外す場面を増やして欲しい。
- ✓ 園内や園庭で遊んでいる普段の子どもの様子を写した写真を販売して欲しい。
- ✓ コロナ禍ではあるが、人と人とのコミュニケーションの充実を考えるべきである。
- ✓ コロナ禍なので感染防止対策も必要ではあるが、諸行事への保護者の参加人数の制限

を緩和して欲しい。また、食育もコロナ禍前のように実践していただきたい。

- ✓ 幼稚園での事故や怪我について、保護者への連絡が遅い場合や無い場合があるため、連絡は適切に行って欲しい。
- ✓ 年長では、小学校のように“連絡事項を書いて帰る”取り組みも必要と考える。
- ✓ 年少では、子どもへの声の掛け方によって、子どもへのプレッシャーになっていることもあるので、注意が必要である。
- ✓ 経験豊かな教員もいるが、経験の浅い教員の育成にも取り組んで欲しい。
- ✓ より一層、保護者と教員との関わりを持てるようにすべきである。
- ✓ 運動会は、三学年合同の開催が望ましい。
- ✓ クリスマス会は、「蒼天」で開催して欲しい。
- ✓ 誕生会の保護者への質問は、保護者のプライバシーへの配慮も必要である。
- ✓ 送迎時に教員への連絡を円滑に行えるよう、玄関待機の教員を増やすべきである。
- ✓ 雨天送迎時の対応として、駐輪場への屋根の設置など雨天対策を検討して欲しい。
- ✓ 登降園時における自動車送迎について、保護者へ交通ルールの順守等マナー向上を働きかけるべきである。

以上の関係者評価を真摯に受け止め、慣れ合いになることなく、より良い保育・教育を目指して各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。